

東日本大震災に伴う津波被害地における生態系の 自律的回復の記録と観察会などを通じた市民への情報発信

南蒲生／砂浜海岸エコトーンモニタリングネットワーク
富田瑞樹・平吹喜彦・加藤 恵・原 慶太郎・菅野 洋

I. 背景と成果

大津波の被害を受けた仙台平野沿岸部では復旧工事が進んでいるが、生物・生態系への配慮は少ない。津波後に再生しつつある様々な生物や生態系を将来世代にできるだけ残すためには、これらからなる海岸エコトーンの情報幅広く市民に提供する必要があります。あわせて、地域の人々が海岸エコトーンから得てきた恵みについての情報を得ながら、地域の人々とともに、安全と自然の両立を模索し続けることが重要である。

南蒲生／砂浜海岸エコトーンモニタリングネットワークでは、1) これまでの活動から得られた生物・生態系の再生に関わる知見の提供と、2) 市民と地域の人々との交流を目的としての、パンフレットの作成と、緑を守り育てる宮城県連絡会議や北の里浜花のかけはしネットワークなど市民団体と協働しての3度の現地シンポジウムを開催した。これらを通して、市民への啓発と、市民と地域の人々との活発な意見交換がなされた。以下に詳細を紹介する。

II. 成果の詳細

1. パンフレット作成

2014年3月11日にパンフレット「海辺の

いのちのメッセージ」を発行し、現在までに1000部を市民・行政・学会などへ配布した(図1)。津波から3年を経て、海辺の生きものや、生きものが織りなす仕組みがどのように変化したかを分かりやすく伝えることを目的に作成した。

2. 現地シンポジウム 1

2014年6月13日に仙台市宮城野区岡田の砂浜海岸において「ふるさとの海辺は生きている：ビーチクリーンアップとネイチャークルージング」を実施した。市民や大学、市民団体、行政機関などから76名が参加し、午前は砂浜で人工漂着物の清掃の場を、午後は内陸側の砂丘上で再生しつつある生物相・生態系、それらと人々の関わりに関する学びあいの場を設け、参加者間の交流を図った。

3. 現地シンポジウム 2

2014年9月14日に仙台市宮城野区岡田の新浜集会所と新浜沿岸部にて「震災を克服する市民力：岡田新浜に学ぶ」を実施した。新浜町内会や大学、市民団体、行政機関などから30名が参加し、町内会の皆さんから地域の被災状況、復興の現状、震災以前の人と自然とのつながりに関する話題提供がなされた。また、沿岸部を案内いただき、参加者間での意見交換を実施し



図1 パンフレット「海辺のいのちのメッセージ」。砂浜海岸エコトーンを構成する生物・生態系の再生状況を紹介するパンフレット。pdf版をウェブサイトで公開している (<https://sites.google.com/site/ecotonesendai/news/panfurettohaibiannoichinomesseji>)



図2 現地シンポジウム「エコトーンサイト ネイチャークルージング—砂浜を学び、砂浜を未来に伝える」の様子。新浜町内会、市民や大学、行政機関、市民団体の参加があった

た.

4. 現地シンポジウム3

2014年9月15日に仙台市七郷市民センターで「エコトーンサイト ネイチャークルージング 砂浜を学び、砂浜を未来に伝える」を開催し、新浜町内会や大学、市民団体、行政機関などから50名が参加した(図2)。午前は学習会

として砂浜の生態系/植生を専門とする松島肇氏、岡 浩平氏から講演いただき、午後には新浜の砂浜海岸に移動して砂浜植物を播種・植栽した。これは、復旧工事によって失われる砂浜植物レスキューを目的とした活動であり、現地で採取された種子を北海道で育苗し、繁殖開始前に現地に戻したものである。

24th Pro Natura Fund Domestic Activity

Self-sustained recovery of ecotones damaged by the Great East Japan
Earthquake and dissemination of information through continuing
education programs

TOMITA Mizuki, HIRABUKI Yoshihiko, KATO Megumi,
HARA Keitarou and KANNO Hiroshi